

「一人の人間として～医師原田正純はどこで何を見たのか～」 企画展

趣旨

水俣病研究の第一人者であった原田正純先生が平成24年6月11日に死去されました。水俣病資料館といたしましても、原田先生の業績の一端をご紹介するとともに、先生の歩まれた道を少しでもお伝えしたく、今回は「一人の人間として～医師原田正純はどこで何を見たのか～」というテーマで展示することといたしました。

1960年代初め、原田先生が水俣を訪れ、見たものは、生活に困窮し差別に苦しむ患者の姿でありました。以来半世紀、現地に通り、現場から学び、患者に寄り添いながら、弱者の立場に立つ姿勢を貫き、水俣病事件の経過とともに歩み続けられてこられました。この間、胎児性水俣病の存在を確認されるとともに、胎児性患者の行く末を案じ、継続的な関わりをもって、様々な相談にも丁寧に対応されてこられました。先生に寄せる患者一人ひとりの信頼は大なるものでありました。

また、医師として1963年の三池の炭塵爆発事故による一酸化炭素中毒症患者の被害救済にたずさわられたのをはじめとして、国内の多くの公害問題についても関わられました。日本国内はもとより、カナダ、ブラジル、アジア諸国をはじめとして国外にも何度も出かけられ、水銀被害の調査を行い、水俣の経験を伝えられました。その功績は余人に代え難いものでありました。

原田先生は、「水俣病は鏡である。この鏡は、みる人によって深くも、浅くも、平板にも立体的にもみえる。そこに社会のしくみや政治のありよう、そしてみずからの生きざままで、あらゆるものが残酷なまで映し出されてしまう」と語られましたが、昨年の福島原発事故もそうですが、私たちにとって真の豊かさとは何か、私たちの暮らしのあり方が根本から問われております。今こそ水俣病を学ぶ時であると考えます。

さらに、原田先生は、水俣病事件を引き起こした背景にある経済優先・生命軽視の社会を変革し、いのちを大切に社会にするために、水俣病事件の過ちから学び、将来に生かしていく、地元を根ざした新たな学として水俣学を提唱されております。今回の展示を先生が目指されたことを共に学ぶ一助としていただけたらと思います。

今回の企画展開催にあたりましては、原田家の皆様をはじめとして、様々な方々にご協力をいただきました。

ここに深く感謝の意を表します。

平成24年9月1日

水俣市立水俣病資料館
館長 坂本 直充

一人の人間として～医師原田正純は、そこで何を見たのか～

■趣旨

1 企画展趣旨

■宮本憲一氏の語る原田正純

2 水俣病の解決に殉じた原田正純さんを偲ぶ

■丸山定巳氏の語る原田正純

3 「水俣学」を発展させること。それが残された者の使命

■金子スミ子氏の語る原田正純

4 「先生のおかげで暮らせてます」

■坂本フジエ氏の語る原田正純

5 「人のために忙しい人生じゃった」

■ほっとはうすの皆さんが語る原田正純

6 ほっとはうすの皆さんが語る原田正純

■原田正純氏の足跡

7 胎児性患者との出会い

8 カナダへ、ブラジルへ、そして世界へ

9 水俣病裁判被害者支援

10 水俣病の検診風景

11 水俣学の提唱

12 水俣学とは？

■年表

13 原田正純氏の年表（詳細版）

14 原田正純氏の年表

■写真パネル

15 恋路島と原田正純氏

16 スtockホルムでの原田正純氏

17 検診をする原田正純氏

■著作物パネル

18 原田正純氏著作物一覧

■原田正純氏新聞記事一覧

19 新聞記事① 昭和46年－平成2年

20 新聞記事② 平成3年－平成12年

21 新聞記事③ 平成13年－平成22年

22 新聞記事④ 平成23年－平成24年